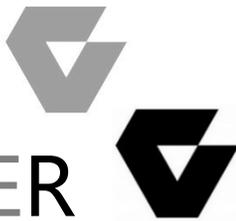


日本創造学会

Japan Creativity Society

JCS NEWS LETTER



第46回日本創造学会研究大会

開催日: 2024/11/9(土)-10(日)

会場: 久留米大学 御井キャンパス(対面開催)



大会テーマ:

「テンベアのころ: 対話・フィールドワーク」



大会実行委員長
川路崇博
久留米大学



プログラム委員長
古川洋章
北九州市立大学



参加者交流委員長
井上奈美子
福岡県立大学

近年、ChatGPTをはじめとした生成系AI（人工知能）があらゆる場面で取り上げられています。また「知能」とはなにかについての論議もかねてより活発です。例えば外山はそのエッセイの中で、人間が生まれながらにして持ちうる五感などを「自然知能」としています。一方、同じ「自然知能」という語であっても、西郷は圏論という数学的言語を活用し、何か解決したい問題があるときに自然現象を活用する方法論と説明しています。さらに郡司は「天然知能」を1.5人称的知性であり、知覚できない外部に対する感性である指摘するなど、「知能」は思い付くだけでも多くの側面を持っています。

どのような知能を活用しようとも、「我々」が見て触れて得たものが創造のトリガになっていることは、経験則としてご理解いただけているのではないのでしょうか。その時、目的がある場合だけではなくそれがない場合、さらには目的外である場合など、人間の発想は予測できないまま跳びますから、「創造」に対する関心は薄れることがないのかもしれませんが、『サイダーのように言葉が湧き上がる』がごとく、創造において知能を活用した経験が多かれ少なかれあるはずで。

今回の全国大会は、コロナ前に一般的に実施されていた対面のみとしました。かつて和崎はフィールドワークを通じてテンベアという概念を見出しました。テンベアとはスワヒリ語で、目的もゴールも明確ではないぶらぶら歩きを意味します。おおむね2年に1度ペースで開催される地方大会の会場が回ってくることは、地方と参加者の双方の寛容性、つまりテンベアのころが試されるののかもしれません。

そこで発表の形式も従来の方式から、より論議を広く深くするために、すべて「インタラクティブ発表」としました。発表者は、ポスターなどのツールを使って大いに参加者どうしで研究を検討してください。さらに予稿原稿の締め切りを少し早めに設定して、編集したものをなるべく早くお届けする予定です。これは反転学習のようなものです。ぜひ事前にお読み頂き、会場で論議を深めてください。発表では、新しいアイデアの提案や問題の提起、研究萌芽段階の論議などアイデアレベルの内容やデモを歓迎いたします。特に学生や企業の方による発表を期待しています。また、参加者間で研究に加え、その他知的な幅広い交流が生まれますことを希望しています。

大会要項

【参加申込書】 研究大会参加申込書をご記入の上、事務局アドレスに送付。

【会場】 久留米大学【発表申込み】 申込書の発表申込欄に記入（発表要項をお送りします）

【日程と開催方法】 2024年11月9日（土）、11月10日（日）対面開催

【内容】 1日目フィールドワーク/記念講演、表彰 等

2日目フィールドワークまとめ/インタラクティブ発表・ポスター発表/総会報告 等

【発表申込締切】 9月1日 【研究発表論文/レジュメ提出締切】 10月6日（厳守）

【発表のない参加申込締切】 11月8日

【参加費】 事前振込 学生（会員/非会員同額）1,000円、会員2,000円、非会員4,000円
当日参加（共通）5,000円※現金のみ

【発表論文掲載料】 4頁まで2000円、1頁追加ごと1000円

【ポスター発表レジュメ掲載料】 A4/1頁500円 追加頁不可 ※書式自由A4

【発表について】

〈インタラクティブ発表の場合〉

原稿締切：2024年10月6日（日） ※原稿は所定のテンプレートに従って作成ください。

- ・発表は会員に限ります。非会員で発表希望の方は入会手続き後にお申し込みください。
- ・インタラクティブ発表（ポスターや、デモなどを含む）とし60分間です。
- ・論文の査読はありません。論文執筆要綱に従った形式で投稿していただければ、仮説のままや実験途中の案件でも構いません。ただし、事務局への訂正の依頼等は受け付けられませんので、ご了承ください。

〈ポスター発表の場合〉

締切：2024年10月6日（日）

- ・原稿に様式はありません。ただしA4サイズ1枚に納めてください（論文集印刷用レジュメは、手書き・絵・写真・図など、形式自由です）。
- ・発表は会員に限りますが、学生のみ非会員での発表ができます。
- ・ポスター発表（ポスターや、デモなどを含む）とし30分間です。

【公知予定日】

インタラクティブ発表・ポスター発表の原稿ともに、2024年11月2日（土）より事前に参加申し込み者にPDFファイルをお送りする予定です。

※参加申込書・論文テンプレートは[第46回研究大会ウェブサイト](#)よりダウンロードできます。

※発表での注意事項

○電気を使用するデモ機器のために十分な電源（コンセント）を準備することができません。もしデモに電源が必要な場合は、各自でご準備ください。

○ノートパソコンなどの充電用のコンセント・タップはいくつか準備いたしますが、発表場所と離れている可能性があります。譲り合ってください。

○インタラクティブ発表・ポスター発表ともに、幅が約1,500mm、高さ約2,000mmの壁（教室の壁）を利用できますが、押しピンは利用できません。また、掲示物を貼る際は、壁が痛むのを防ぐため、絶対にガムテープを使用しないでください。セロファンテープや養生テープなどを利用してください。セロファンテープや養生テープは会場で準備しております。

○インタラクティブ発表では机を準備いたします。ポスター発表では机の準備はいたしません。インターネット回線（Wi-Fi）は、eduroamが利用できます。ただし、サービスはhttps(http)のみに制限されています。

○eduroamアカウントがない場合は、別途研究大会期間中のみのアカウントを発行します。詳細が分かり次第ご連絡します。

○ドレスコード：スーツはなるべく着てこないようにしましょう。

【大会プログラム（予定）】

1日目 11月9日（土）		2日目 11月10日（日）	
13:00	受付開始	10:00-11:00	久留米フィールドワークまとめ
14:00-14:05	開会挨拶 実行委員長	11:05-11:30	フェロー記念講演・学会賞表彰式
14:05-16:00	久留米フィールドワーク	11:30-13:00	お昼休み（お弁当手配を予定）・発表準備
		13:00-14:00	インタラクティブ発表1
16:00	解散（それぞれ食事などへ）	14:00-14:40	ポスター発表
時間はお知らせします	懇親会 フレアカクテル	14:40-15:40	インタラクティブ発表2
		15:40-16:00	投票・総会報告・集合写真撮影
		16:00	解散

◆懇親会について◆

久留米市は豚骨ラーメン発祥の地として、また全国七大焼きとりの地としても知られており、食事には困りません。これらは各々でご賞味いただくとして、世界に誇るフレアカクテルバーでの懇親と、一風変わった催しを企画しております。詳細が決まりましたら、追ってお知らせいたします。

久留米大学 御井キャンパスへのアクセス

西鉄をご利用の場合

西鉄久留米駅下車→西鉄バス系統番号1, 1-1, 2, 7, 9（久留米大学前、信愛学院 久留米、竹の子行きに乗車し、「朝妻」または「久留米大学前」下車）＜所要時間：約15分＞
西鉄福岡駅(天神)から久留米駅まで、特急で31分、急行で39分、普通で75分程度です。
バスはおおむね15分に1本程度運行しています。西鉄バスナビアプリ（Android／Apple）が便利です。

JRをご利用の場合

JR久留米駅下車の場合：西鉄バス系統番号1, 7, 40, 48（信愛学院 久留米行にて「朝妻」または「久留米大学前」下車）＜所要時間：約25分＞
久大線に乗り換えた場合：JR久留米大学前駅下車＜所要時間：約3分（徒歩）＞
博多駅から久留米駅まで、新幹線で17分、快速で35分程度です。なお、久大線への乗り継ぎはあまりよくありません。

お車をご利用の場合

最寄りのI.C.：九州道 久留米I.C.＜所要時間：約10分＞
当日、別校舎で駐車場規制が入る予定ですので、お車でのご予定の方は事前にお申し出ください。

福岡空港をご利用の場合（空港バス）

福岡空港から久留米大学最寄りバス停（千本杉バス停）＜所要時間：約40分＋バス停から大学まで徒歩約10分＞
毎時30分発で、福岡空港から久留米行の空港バスが運行されています。大学最寄りバス停は「千本杉」です。「千本杉」から大学まで、徒歩約10分ほどです。

宿泊について

宿泊のホテルは個人での手配となります。大会ウェブサイトではホテルを紹介しております。久留米市内のホテルは大学への利便性も良く、インバウンドや大きなイベント等に影響を受けにくく、価格もリーズナブルなのでお勧め致します。

第46回研究大会ウェブサイト（申込書/論文テンプレートはこちらから）

<http://www.japancreativity.jp/conference/46/index.html>



▲▼▲第84回クリエイティブサロン（2024年4月14日）開催報告▲▼▲

第84回クリエイティブサロンは、前半をメタバースの概念やレクチャー、創造性との関連の講演と基本操作などを学習、後半では参加者の皆様とともにいくつかのメタバースの世界を回り、クリエイティブを探究するツアーを開催しました。

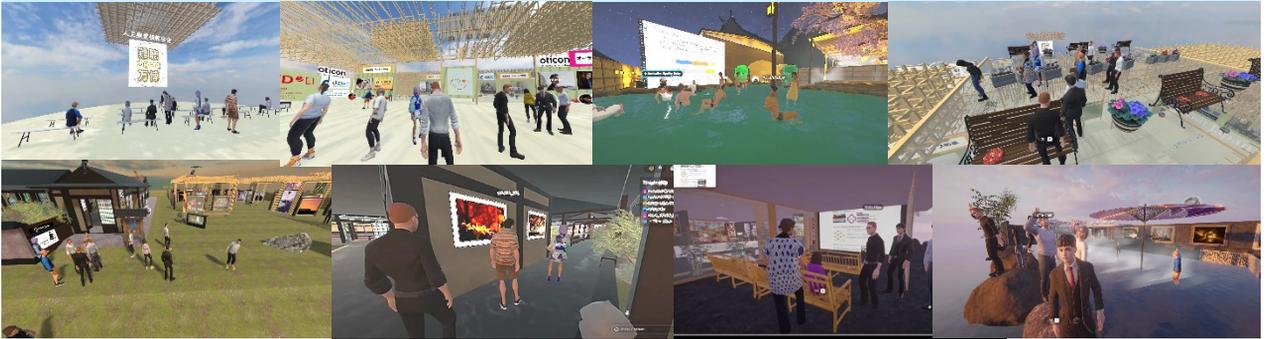
「メタバースクリエイティブツアー」

講師/ファシリテーター：馬場康之氏 放送局勤務・日本創造学会会員



メタバースクリエイティブツアーは下記のURLからオンデマンド視聴できます。

<https://youtu.be/x2A0qbpOGTM>



メタバースイベント（FSMF2024）に学生とともに参加して



報告：杉原麻美
日本創造学会理事
淑徳大学 人文学部 准教授

2024年5月31日～6月2日に日本創造学会会員である馬場康之氏が企画されたメタバース空間でのイベントFirst Step Metaverse Festival（以下FSMF）2024が開催された。FSMFはメタバース空間を活用して多分野の講演やワークショップが行われるイベントで、今回は昨年に続く2回目。参加すれば必ず「はじめて」のことに出会えるというコンセプトで、メタバース初登壇の内容を集めている。第2回のテーマは「はじめては終わることがない」。本学会からも初日に前野隆司先生（慶應義塾大学大学院教授・武蔵野大学教授）、白坂成功先生（慶應義塾大学大学院教授）が登壇され、筆者は最終日に学生とともに「Z世代の日常 これって知ってますか？」と題した発表機会を得た。この学生の様子を中心に報告したい。

参加学生はゼミの大学3年生有志6名で、メタバースは全員が初めてだった。発表に先立ち操作説明とアバター作成のレクチャーを行い、約1カ月の準備期間を経て本番に臨んだ。使用するプラットフォームはSpatial（スペーシャル）で、専用デバイスを必要とせずWebブラウザか専用アプリからアクセスできる。未経験者でも簡単に操作でき、無料の範囲で美しい空間のメタバース体験が楽しめる。当日は、発表者が前方ステージに上がり、横に表示されるスライド資料を用いてペアトークで進行した。学生たちは当初は極度に緊張していたが、すぐにリラックスしていた。アバターで発表していること、参加者との距離感や反応が可視化できていることが功奏したと考えられる。学生のコメントでも「聴いてくださる方のリアクション（“いいね”や“拍手”）が印象的で、Zoomなどでは感じ得ない会場と繋がっている実感があった」「周りから反応をいただけて、自分も話しているうちに楽しくなっていた」などの声が挙がっていた。また、リハーサル、控え室、当日の司会進行などにおいては、馬場氏の持つ放送制作のノウハウが活かされていた。今後広がっていくであろう新しい発表スタイルに参加でき貴重な経験であった。関係者の皆様に感謝申し上げます。

（FSMF2024公式HP） <https://smf2024.hp.peraichi.com/ybmeta>



▲▼▲第85回クリエイティブサロン（2024年6月9日）開催報告▲▼▲

第85回は論文賞、研究大会発表賞、デジタルポスター発表賞の受賞者の皆様の講演会を開催しました。各講演の動画は各URLより視聴できます。

「異分野融合イノベーションによる新産業形成の方法論の研究
～農業ビジネス国オランダ・スペイン視察含む～」

論文賞講演 講師：森田純恵氏 秋田県立大学教授



森田純恵氏の講演は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

<https://youtu.be/zWJ4J3tVHGw>

「デザイン思考を取り入れた図画工作科の新手法
ケニアの貧困地区の子供達への適応」

発表賞講演1 講師：藤井賢二氏 慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート(KGRI)
健康寿命延伸プロジェクト 研究員



藤井賢二氏の講演は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

<https://youtu.be/sUIMOiBZMao>

「グローバル教育による多様性適応力の成長
一大学における英語で学ぶホスピタリティ教育を対象として」

発表賞講演2 講師：藤原由美氏 産業能率大学教授、慶應義塾大学大学院システムデザイン・
マネジメント研究科附属研究所研究員



藤原由美氏の講演は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

<https://youtu.be/QXefupV-F6Y>

「Chat GPTでKJ法はできるのか？GPT4 vs GPT4o、手順教授型と事例提示型」

デジタルポスター賞講演 講師：安松健氏 株式会社エポルブ Chief Assemblage Officer
大阪教育大学 理数情報教育系 特任准教授



安松健氏の講演は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

<https://youtu.be/S1POh2E7izY>



比嘉佑典先生！ んじチャーびら！！

フェロー：高橋 誠

比嘉先生がこの5月30日に心不全で亡くなりました。84歳でした。先生は1940年に沖縄県名護市で誕生され、琉球大学教育学部、東洋大学教育学科を卒業。その後、東洋大学大学院の修士に入られ、助手に就任のため中退され、講師、助教授を経て文学部教授やアジア文化研究所長に就任され、名誉教授になられました。教育学の学術博士でもあります。東洋大学を退官後は沖縄に帰られ、名桜大学の理事長として活躍されました。ご家族は満代夫人と2人のお嬢さんです。

東洋大学には創造性心理学の第一人者、故恩田彰教授がおられました。先生は恩田先生の元、創造性研究者の道を進まれ、日本創造学会に入会されました。そして、理事、副理事長を経て1999年から2001年まで、第6代の理事長を務め、名誉学会長に推挙されました。著書には、「遊びと創造性の研究」「児童遊戯賛歌」「地域の再生と観光文化」などがあります。

私は東京教育大学(現、筑波大学)で、先生とは大学は違いますが、恩田門下でもあり先生とは、学生時代から深い付き合いをしてきました。日本創造学会では、先生が6代目、私は7代目の理事長です。2000年前後の本学会は、役員の問題、資金不足など多様な問題が頻発し、危機的状態でした。その危機を乗り越え、学会を正常化に導いたのは先生の功績といえます。また2008年には学会30年誌の「創造性研究のあゆみ」を、編集委員長として編纂されました。

先生とは、長い長い付き合いで思い出は山ほどあります。沖縄や東京青山で泡盛の百年物をいただき泥酔しました。しかし何ととっても昨年11月に、今帰仁で久しぶりにお会いし、先生のお元気な姿とお声に接しられたのが、忘れられません。学会の仲間たちも、久しぶりの出会いの方や、初対面の方など多彩でしたが、皆さん大変喜んだことと思います。私たちは、先生の本学会への貢献を決して忘れてはなりません。

最後に、先生への深い感謝の気持ちで、心を込めて「んじチャーびら」(さようなら)を言いたいと思います。

シン創造の定義 —1983年と2022年の比較—

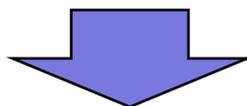


日本創造学会として「創造とは何か」を定義することは、必須の責務と考える。そこで筆者は日本創造学会「会員の方々」に「創造とは何か」のアンケートを、1983年に実施し83人の方々から回答を、それから約40年後の2022年には、46人の方々から回答を得た。そしてこの回答を元に、それぞれ「創造の定義」を考えた。2023年の定義が以下の「シン創造の定義」である。1983年との違いは、創造は人間固有のものとの考えから、AIの台頭により、創造のある部分は人間以外が補完できるようになり、人間独自のものではなくなったところにある。

(フェロー：高橋 誠)

◆1983年の「創造の定義」

「創造とは、人が問題を異質な情報群を組み合わせ統合して解決し、社会あるいは個人レベルで、新しい価値を生むこと」である。



◆「シン創造の定義」

「創造とは、問題を発見し多様な情報群を組合せて解決案を創出し、人が解決策を決定し、社会や個人レベルで新価値を生み、共感が得られ、倫理を踏まえたもの」

シン創造の定義に関する調査・分析の詳細は、[日本創造学会ウェブサイト](#)の「創造の定義」に掲載されております。

新入会員紹介



入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
八代華代子	学生会員	慶應義塾大学大学院	東京都	コミュニケーションデザイン・ 非言語コミュニケーション
(株)リコー	賛助会員 (3口)		東京都	
佐々牧雄	正会員	関東学院大学	東京都	サービスデザイン・創造的思考法
仁藤安久	正会員	株式会社Que	東京都	文化人類学・地域づくり
崔 秀霞	学生会員	北陸先端科学技術大学院大学	大阪市	日本語教育
甲谷勇平	学生会員	慶應義塾大学大学院	神奈川県	システムデザイン・マネジメント・ スポーツ心理学
藤井勇成	学生会員	一橋大学大学院	東京都	経営戦略・イノベーション論

2024年度会員総会について “書面による総会”を実施します

理事長 豊田貞光

2024年度日本創造学会総会は昨年度と同様に参集による総会を行わず、会員の皆様へ書面（メール）による書類送付を実施し、その返信の結果をもって決議といたします。

なお、全会員は会則により総会への出席の義務がございますので、メール到着の際には確認し、必ず返信をお願い致します。返信をもって総会への参加とみなされます。

書面による総会の評決結果は研究大会2日目、11月10日15時40分から開催される総会報告の時間に理事長より報告致します。

事務局メッセージ

第46回研究大会は福岡県の久留米大学で開催されます。今回の大会は、これまでとは一味も二味も違う大会になりそうです。対面開催、フィールドワーク、そしてインタラクティブ・ポスター発表。参加者同士の対話や議論をより深められる場になるように企画されています。

いつもとは違う場所で、新たな風景や新たな知識と出会ってみませんか。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニュースレター
2024年7月発行（No.2）

日本創造学会事務局

発行人：豊田貞光

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0031 千葉県市川市平田
1-10-2

Tel 080-3465-6152

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp

<http://www.japancreativity.jp/>